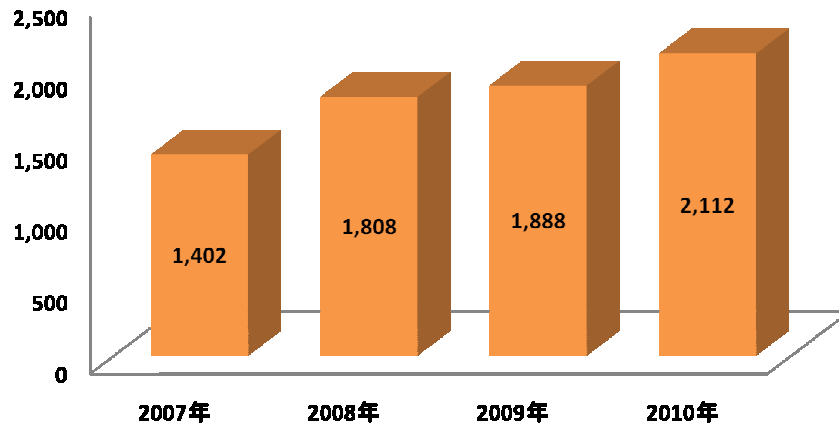
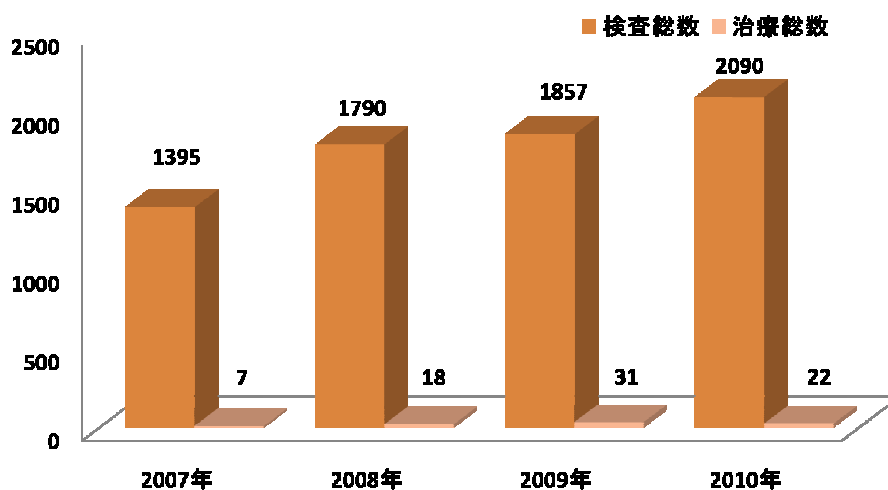


上部消化管内視鏡検査



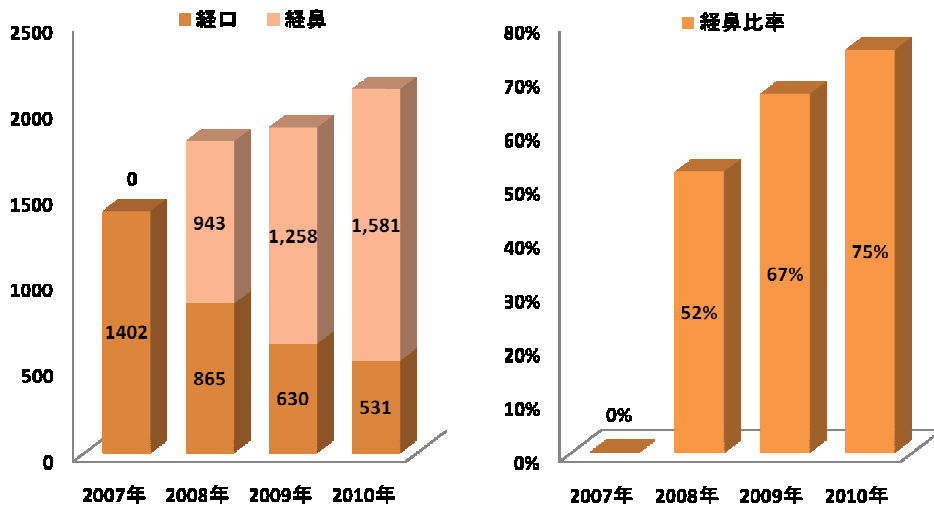
上部内視鏡検査件数は、2008年に常勤の内視鏡専門医の赴任、経鼻内視鏡検査装置一式の導入などにより2007年の1,402件から1,808件(29%増)に増加しました。2009年は前年比4%増で殆ど横ばいでしたが、2010年は7月に新発売の経鼻内視鏡ファイバー(広視野、高画質)を1本追加して3本体制にした事、洗浄時間が短くて済む洗浄機器を新規導入した事により、1日の検査数を増やすことが可能になり2,112件と12%増を達成しました。2011年度は、経鼻内視鏡ファイバー3本体制(通常の経口内視鏡装置一式及びファイバー3本も使用可能)が全年的に寄与する事、ドックなどの受検者の中には、バリウムを使用した造影検査よりも苦痛の少ない経鼻内視鏡を希望する方が増えてきている事などにより、更に増加すると考えられます。

上部消化管内視鏡検査 (検査・治療別)



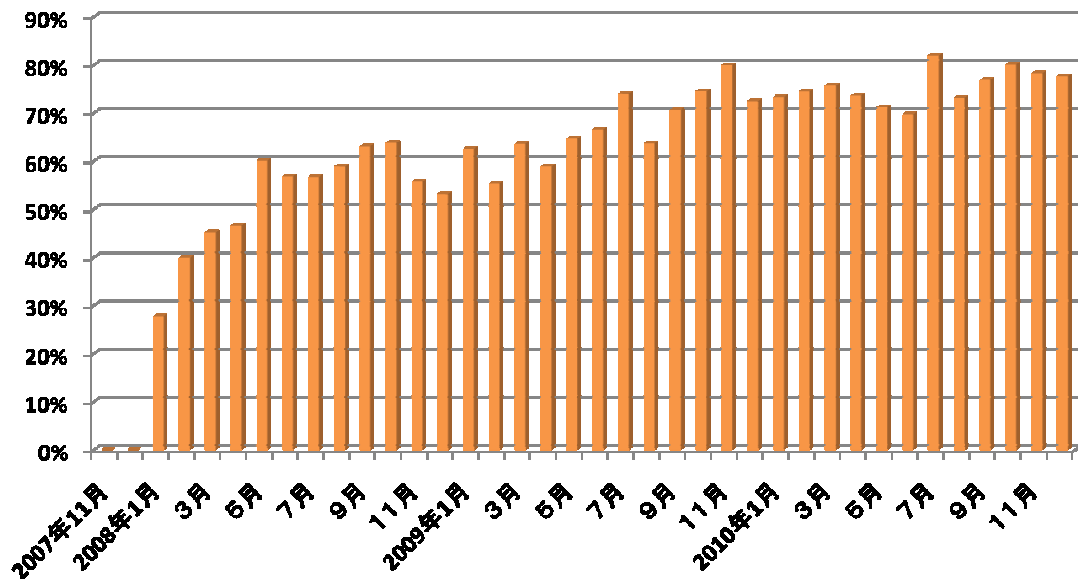
上部消化管内視鏡検査は大部分検査・生検目的であり、EMR や PEG等の処置内視鏡は1%程度でした。

上部消化管内視鏡検査 (挿入経路別)



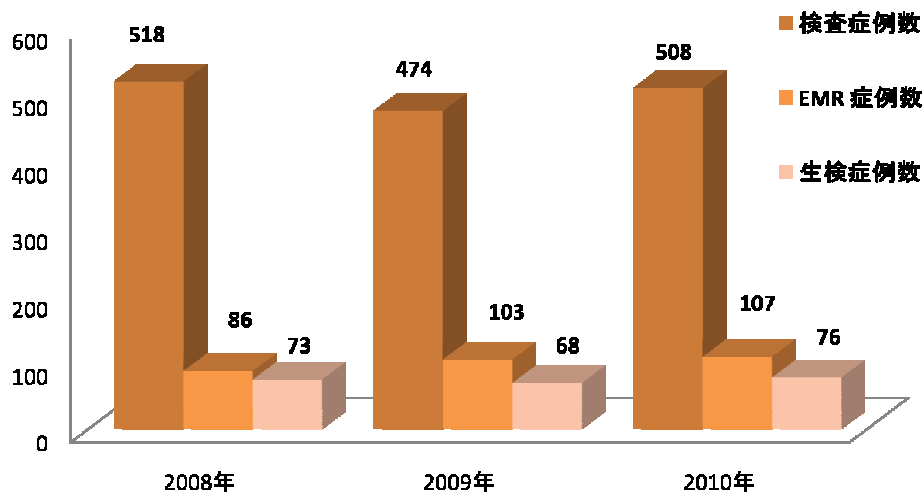
2008年1月から経鼻内視鏡検査を開始しました。経鼻内視鏡検査比率は、2008年が52% (2人に1人)、2009年が67% (3人に2人)、2010年は75% (4人に3人) と増加してきています。経鼻内視鏡用の細径 (直径約6mm) ファイバースコープの使用では、経口経路の検査でも通常の太さ (直径約10mm) 経口内視鏡用ファイバースコープに比して楽に検査を受けられる事が可能です。一度経鼻的に検査を受けた方で、鼻出血、鼻の痛み等を経験した方では、細径ファイバースコープを使用した経口内視鏡を希望されたり、検査施行医師も無理に経鼻を選択しなくなってきたので、経鼻比率も75%~80%程度に収束すると考えられます。

経鼻内視鏡検査比率 (月毎)



2007年12月末に経鼻内視鏡装置一式を新規導入し、2008年1月から経鼻内視鏡検査を開始しました。検査医師数は3名で、1医師は経鼻内視鏡検査経験者、2医師は未経験者でした。経鼻内視鏡検査頻度は導入後半年で50%を超え、3年後の現時点では75%程度で推移しています。

下部消化管内視鏡検査



大腸内視鏡検査件数は年間約500例で、3年間殆ど変わっていません。検査時にポリープ等の切除(EMR)は約20%の方、腫瘍等の組織の一部を採取する生検は約15%の方に行われています。